

おしゃべり美術部レター

札幌市立啓明中学校職場体験！

鑑賞ワークショップ「札幌おしゃべり美術部」の第二回が令和六年十一月十五日(金)本郷新記念札幌彫刻美術館で開催されました。美術作品の鑑賞をみんなで「おしゃべりしながら楽しむ会」で、最後は作品の解説文(批評)を書くことに挑戦するものです。

今回は札幌市立啓明中学校2年生の生徒7名が、職場体験として美術館に訪問しました。「作品について解説する」というのは美術館の仕事のほんの一部に過ぎませんが、とても専門的に重要な仕事ですので、この機会を利用して「おしゃべり美術部」を敢行することになったわけですね。おしゃべり美術部のコンセプトや方法論につきましてはレター第一号に全て書いてありますので割愛します。確認したい方は左のQRコードからダウンロードしてください。



おしゃべり美術部
レター Vol.1
(1.20MB)



③最後に200～400字程度の作品解説文を書いてもらいました。まるで小論文の試験を受けているかのような真剣な雰囲気、50分間執筆しました。



②次に自由鑑賞。自分のお気に入りの作品を見つけてもらい、鑑賞ノートを付けます。その後、一人ずつ作品の特徴と見どころを口頭で発表してもらいました。



①まずは作品を色々な角度からじっくりと観察して、お互いの意見を交換し合います。「作品をここまで細かく見ることは学校の美術の授業ではやったことがないので新鮮でした」という声が多数上がりました。

参加者による批評

● 打つ

一見するとただの手、それも少し変わったポーズをしているこの作品は、基石を打つ手を表現している。囲碁の対戦の中で、まさに勝負を決める一手をさす瞬間なのだろう。緊張した小指、不自然な手の形から「絶対に決めてみせる。」という強い意志を感じる。

この不自然なポーズは、真似をしてみると難しい形をしていることがよく分かる。特に小指の位置が高く、関節の曲がり具合が普通ではない。私はこの動きに見覚えがあったので思い返してみると、それはピアノの演奏で緊張したときだった。たたくさんの時間と労力を費やしてここまでやってきたからこその感情の表れがこの形だとすると、この手一つから様々なその人物に関するエピソードが浮かび上がってくる。この作品は「手」単体で人に様々なメッセージを与えてくれる素晴らしい作品だ。(Iさん)

(参加者の批評・裏面に続く！)



本郷新《打つ》石膏、1976年



開催中の展覧会

「コレクション展 2024-2025」<記念館>
2024.6.1-2025.5.25

彫刻家・本郷新(1905-1980)がアトリエとして使用していた建物に、66点の彫刻を展示中。500件以上の本郷新の自著文献から厳選した文章とともに作品を鑑賞することができます。

顧問

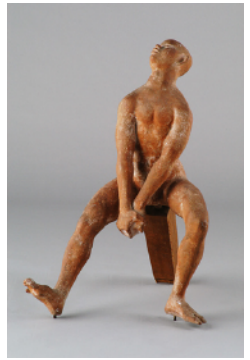


梅村尚幸
(本郷新記念札幌彫刻美術館学芸員)

今回は中学生の職場体験ということで、「社会に出たら答えのない世界を泳がねばならぬ…」ということを伝えました。芸術作品を鑑賞し、それについて言語化することは、こういう世界を生き抜くためのとてもいいトレーニングになるでしょう。

Vol. 2
2024年11月15日
本郷新記念札幌彫刻美術館

「本郷新の言葉」
「子供にとって、その生活環境から縁の遠い題材を書くことから美術の「愛する心」が生れない。感激や喜びや、共感やそのようなものと結びつかないものは美術の心へ入ることが出来ないからである。…そしてこれ等の勉強が、子供の住んでいる土地、学校、家、生活の環境、日々の関心、学校での日課、勉強、遊び時間、それらと互いに関係させて美術をそこへ置くことが先ず第一に指導する人の眼目でなければならぬ」——本郷新「美術について」『教育美術』、一九四六年



本郷新《駄々っ子》コンクリート、1955年

● 駄々っ子

暖かみのある色合をしたオレ
ンジのコンクリートから造られ
た男の子がすわっている裸像。
親が隣にいるのだろうか。足を
開きつま先を遊ばせ、肩を落と
し上を向いている。それは気を
ゆるした大人への態度だろう。
また前に手を組みひじを伸ばし
ているのは、何かしらのゆずれ
ないもの、欲しているものがあ
るように思える。ただ、唇をと
がらせしかめた顔をしているの
は、なかなか欲しいものが手に
入らず困っているようだ。素直
に諦めず引き下がない姿は、
題名にある「駄々っ子」そのも
の。(Wさん)



本郷新《泉》ブロンズ、1959年

● 泉

3人の踊り子がモチーフと
なっている、手の先までが美し
くなめらかに表現された作品。
一人の女性は手を振り、もう一
人は手でバツを作っていて、さ
らに一人は手の甲で拍手をして
いる。こう見ると何を暗示して
いるのか分からないが、ストー
リーとして考えてみると手を振
る女性は「待ち合わせしていた
大好きな人とやっと合流できた
うれしさのあまり手を振る」、
手でバツを作る女性は「何かに
無念が残っていてそれを反対し
続ける」、裏拍子をする女性は
「感動のあまり泣き崩れ、手の
裏で拍手」というように、顔の
表情ではなく身体を使う表現を
して、様々な視点から物を見
ること新たな考えが生まれ
るという本郷新の想いを伝えて
いるのである。(Kさん)

● 嵐の中の母子像

この作品は広島
の惨禍をテーマに
した母子像で、母
親と二人の子供の
様子が表現されて
いる。母親は赤
ちゃんを下に抱い
て、大きい方の子
供は手で引っ張っ
て逃がっている様
子から、大変さと
焦っているような
気持ちを感じた。



本郷新《嵐の中の母子像》樹脂、1953年

大きい方の子供が母親をつかむ
手がしっかりと強くにぎって
たので、命がけで逃げている様
子が伝わってきた。母親の姿は
一見子供をかばおうとして下を
向いているだけのように見える
が、足や手に様々な特徴がある。
足は、指がとても曲がっていて、
子供を守るために強い力でふん
ばろうとしていると思った。手
は、子供と離れないように強く
にぎっていて、急いでいる感じ
があった。両腕に子供をかかえ
ていて、必死に生きようとして
いる姿が見られる。この作品は、
人間の生命の尊厳が象徴づけら
れていると私は考えた。この作
品を通して、戦争のつらさと命
の重さを伝えようとしていると
思う。本郷はこの作品を「とこ
とん生きようとする母子の像を
通じて人間の生命の尊厳を象徴
づけた」と語る。(Sさん)

● 氷雪の門

この作品は、戦争で自分の故
郷がなくなり北海道に移住した
人へのなぐさめの像です。手は
何かを持ち上げていているよう
で、足は外向きでふんばっている
ように見えます。顔は上を向い
ていて天にすがるように見え
ました。移住して故郷がなくな
った人々は悲しい思いが残る
からそのマイナスイメージをこ
の像が持ち上げてなぐさめよう
していると思います。顔を上
にあげているのは故郷がなく
なったとしても、生きていくの
だから明るく前を向いていこう
というはげましのメッセージが
あると思います。多くの人が
この作品を見て、苦しみから解
放されるような気持ちになっ
たり、過去の事をずっと引きずら
ないで新しい土地での生活をは
じめようと切り替えられるよう
になったのかなと思いました。
人をなぐさめるときは、ただ単
にはげますだけではなく、相手
の気持ちに寄り添うことが大事
なのだと思ふ。(Oさん)



本郷新《氷雪の門》石膏、1963年

実践を終えて

全員の批評を載せるこ
とが出来ませんでした。が、
みんなそれぞれ味のたが
文章を書いてくれました。
芸術作品について書く、
というのは大人にとって
も決して簡単ではありま
せん。それでも、ポイン
トを押さえていけば中学
生でもそれなりのものが
書けるということが証明
できたように思います。
最近、高校の美術の先
生が「おしゃべり美術部
を参考に鑑賞の授業をや
りたい」と言ってくれま
した。私がレターを書い
て活動を報告している狙
いはあまり始めていると
言えるでしょう。今後も
どんどんおしゃべり美術
部の方法論が広がって
いって、鑑賞好きの人が
増えていったら面白いで
すね。
(編集・執筆：梅村尚幸)